

ZENTARO KOJIMA

館蔵企画展

生誕130年

小島善太郎展



《ナボリの老婆 A》油彩／カンヴァス 1924年

2022年 2月11日(金・祝)～3月27日(日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 毎週月曜日(ただし、3月21日(月・祝)は開館し、翌22日(火)は休館)
観覧料 大人200円(160円)、小・中学生50円(40円)
主催・会場 青梅市立美術館

* ()内は20名以上の団体割引料金です。
* 障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名(障害者手帳をご提示ください)、青梅市内在住の65才以上の方(免許証、保険証など住所と生年月日のわかるものをお一人ずつご提示ください)は無料です。
* 青梅市内の小・中学生は土・日・祝日無料です。
* 青梅市古川英治記念館との共通観覧券(大人800円、小人200円)を販売しています。

新型コロナウイルスの感染状況によっては、会期及び開館時間に変更が生じる場合があります。ご来館に当たっては、事前に当館ホームページなどで、開館状況をご確認ください。

130th Anniversary
of Birth

青梅市立美術館
青梅市立小島善太郎美術館
Ome Municipal Museum Of Art

館蔵企画展

生誕130年

小島善太郎展



《明朝血の桃》油彩／カンヴァス 1980年

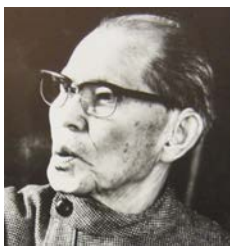
小島善太郎(こじま・ぜんたろう、1892～1984年)は、1930年協会(1926年設立)や独立美術協会(1930年設立)といった、日本洋画史を彩る団体の、設立会員として名を連ねた洋画家です。また、生誕の地は現在の新宿区ですが、フランス留学後は八王子市や日野市に長く居住したことから、多摩地域ともゆかりが深く、青梅市との関係では、地元の青梅美術協会の絵画指導に長年携わり、そうした経緯が青梅市立美術館設立の契機のひとつにもなりました。

本展では小島の生誕130周年を記念して、所蔵する作品のうち55点を、①《画家への歩み》、②《留学後の成果》、③《人物》、④《風景》、⑤《静物》、⑥《裸婦》、⑦《喫茶店ピーコックの元壁画》の7つの章に分けてご紹介します。

ZENTARO KOJIMA

小島善太郎略歴

- 1892年 現在の東京都新宿区に誕生。
- 1903年 淀橋小学校を中途退学。
- 1905年 遠縁にあたる浅草の醤油屋に住み込みで働き一家を支える。
- 1908年 谷中の墓地内で一人の画家の姿に感銘し、画家を志す。この頃、醤油屋を辞し実家に戻る。
- 1910年 前侍従武官陸軍大将・中村覚と知遇を得て、書生をしながら太平洋画会研究所に入所し、中村不折に学ぶ。
- 1911年 研究所のコンクールにおいてデッサン部門で主席となる。はじめての油彩画として《明治時代の娘》を描く。第9回太平洋画会に《斜陽》が初入選を果たす。
- 1912年 第1回ヒュウザン会展に、同人として《晩秋(戸山ヶ原)》を出品。
- 1914年 白馬会葵橋洋画研究所にて研鑽を積む。翌年から安井曾太郎に師事する。
- 1918年 第5回二科展にて《冬枯れの濠》が、また第5回再興日本美術院展にて《静物》が、それぞれ初入選を果たす。
- 1922年 平和記念東京博覧会にて《薄れ陽》が入選。野村徳七(野村證券社長)の後援により渡仏。里見勝蔵や川口軌外と交流を結ぶ。
- 1923年 サロンドートンヌ展に《夕郊外》が入選。
- 1925年 帰国。
- 1926年 滞仏中に知遇を得た里見勝蔵、佐伯祐三、前田寛治らとともに、1930年協会を結成。第1回展に滞欧作を出品。
- 1927年 第14回二科展にて《林中小春日》が二科展賞を受賞、翌年には二科会会友となる。
- 1928年 日本美術学校教員となる。
- 1930年 二科会を退会。1930年協会解散。里見勝蔵、川口軌外、三岸好太郎ら14人とともに、独立美術協会を設立。以降、同会会員として制作を続ける。
- 1932年 南多摩郡加住村(現、八王子市丹木町)に転居。
- 1951年 青梅市内在住の吉川英治、川合玉堂の計らいにより、青梅市公民館にて個展を開催。
- 1952年 青梅美術協会の指導を始める。明星学苑理事となる。
- 1967年 東京純心学園短期大学教授に就任。
- 1969年 自伝『若き日の自画像』出版。
- 1971年 八王子市より日野市百草にアリエ百草画荘を新築、転居。
- 1981年 自伝『巴里の微笑』出版。
- 1984年 心不全にて死去。青梅市立美術館小島善太郎美術館開館。



《奥多摩秋景》油彩／カンヴァス 1983年



《裸婦背向》油彩／カンヴァス 1975年



《明治時代の娘》油彩／カンヴァス 1911年

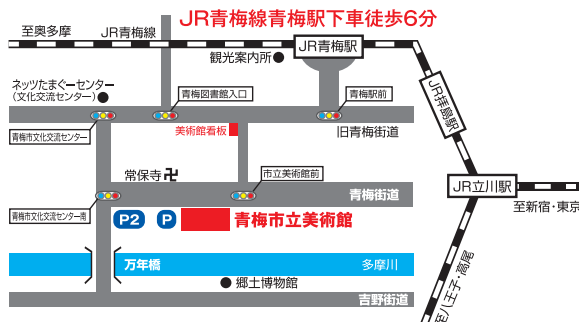


《鏡(髪)》油彩／カンヴァス 1952年

ご来館・ご観覧について

- ・発熱、咳、咽頭痛などの症状がある場合は、ご来館をご遠慮ください。
- ・ご来館に際しては、必ずマスクを着用し、入口での手指の消毒にご協力ください。
- ・館内においては会話を控え、他の来館者との距離を最低1m(できるだけ2mを目安に)確保するようにお願いします。
- ・来館後、新型コロナウイルスへの感染が確認された場合は、速やかに当館へご連絡ください。
- ・館内での飲食、施設敷地内での喫煙、また展示室内での撮影や携帯電話の使用はご遠慮ください。

青梅市立美術館 青梅市立小島善太郎美術館
 JR青梅線青梅駅下車徒歩6分 東京都青梅市滝ノ上町1346-1
TEL 0428-24-1195 / FAX 0428-23-8229
WEB <https://www.city.ome.tokyo.jp/site/art-museum/>



美術館へはなるべく公共交通機関をご利用のうえ、ご来館ください。

